



# 亀中だより

No.18 令和5年6月30日 文責 岡田



For The Students!

## 決意を胸に…！各種大会への壮行会



1年生の部活動が正式にスタートして2ヵ月がたちました。連日30℃近い気温と“蒸し暑さ”の中で、3年生の最後の大会、コンクール等へ向けたラストスパートの活動が続いています。テストの終わった6月23日には鈴亀地区中学校総合体育大会、通信陸上競技大会、三重県吹奏楽コンクールへ出場するみなさんを激励する壮行会も開かれました。発熱等の欠席者がたくさん見られたテスト前であったため、最後の大会を控えた3年生の体調を考慮し、リモートによる壮行会でした。しかし、各部の代表から力強い決意とともに、これまで支えてもらった方への感謝を聞かせてもらいました。大会は7月8日から種目ごとに予定されています。今年度から中体連大会へのコロナガイドラインも撤廃され、保護者のみなさまの観戦も自由度が増しています。ただし、感染対策のほか、熱中症への備えなど健康管理には十分気を付けて大会へ臨んでください。みなさんの健闘を祈っています。なお、大会日程や保護者のみなさんの応援、観戦については各部顧問より、案内させていただきます。

## かけがえのない人、決して失いたくない…

亀山中学校では、修学旅行での平和学習を大切にし、かつては沖縄へ、そして来年からは広島への旅行を計画しています。

そのような中で、6月23日は沖縄慰霊の日でした。沖縄戦を扱った平和学習は機会を見て取り組んできましたが、沖縄戦では、日米合わせて20万人以上が亡くなりました。このうち約19万人が日本側の犠牲者です。沖縄県民は、

一般住民約94,000人(推計)、軍人・軍属28,228人の計約122,000人が亡くなり、県民の4人に1人が犠牲になったと言われています。4年ぶりに通常開催となった平和祈念公園での追悼式で、玉城デニー沖縄県知事は、「平和宣言」の中で「対話による緊張緩和が必要」と述べました。そして、今年の「平和の詩」に選ばれたのは、那覇市にある通信制の私立つくば開成国際高校3年生の平安名 秋さんの詩「今、平和は問いかける」でした。次ページにて紹介します。ぜひご一読ください。



## 沖縄慰霊の日

## 平和の詩 「今、平和は問いかける」

夏六月

溶けかけたアイスを手走り出す  
緑萌ゆるこの島の昼下がりに 礎に刻まれた「兄」に まるであの日のように  
そっと触れるおばあさんの涙は陽炎が登る摩文仁の丘にただ果てしなく広がっていく

その涙は体を包み込み 私を「あの日」へといざなう  
限りないこの空は何を覚えているのだろう  
涙に満ちたおばあさんの瞳は 何を語りかけているのだろう

七十八年前のあの日 あの時 かけがえのないたったひとつの命が  
憎しみと悲しみの中で散っていった  
名も無き赤子の微かな 微かな泣き声は  
震える母の手によって 冷たく光の無いガマの中で儂く消えていった  
幾多もの砲弾が紺碧の海を黒く染める鉄の嵐となってこの島に降り注いだ

戦争が起きる前そこには日常があった  
私達と同じように原っぱを駆け回り 友達とおしゃべりをする  
みんなて暖かいご飯を食べ、時には泣き、時には笑い 時には「ありがとう」を伝える

そんな今と変わらない日常が 平和が  
そこにはあった  
平和は不確かで脆く崩れやすい  
いつもすぐそばにあるのにいつのまにか消えていく

おばあさんの涙は 摩文仁の丘に永遠(とわ)に灯る平和の火は  
今、私達に問いかける 平和とは何かを 私達に出来ることは何かを

私は過去から学び そして未来へと語り継いでいきたい  
おばあさんの涙を 沖縄の想いを かけがえのない人達を  
決して失いたくはないから

今日も時は過ぎていく いつもと変わらずに  
先人達が紡いできた平和を 次は私達が紡いでいこう  
そして世界に届けていきたい 平和を創り 守っていく

この沖縄の「チムグクル」を



※「チムグクル」…沖縄の方言。「人の心に宿る深い思い」、「心からの思いやり」を意味している言葉。